

本模擬問題における問題等の著作権はすべて東京CPA会計学院に帰属します。無断転載・二次利用は固く禁止いたします。

第4問 (20点)

直接作業時間を基準として製造間接費を部門別に予定配賦している綾部摩製作所には、製造部門としては第1製造部と第2製造部があり、補助部門としては修繕部、材料倉庫部および工場事務部がある。下記の[資料]にもとづいて、各問に答えなさい。

[資料]

1. 当製作所の部門別製造間接費予算 (年間)

第1製造部	第2製造部	修繕部	材料倉庫部	工場事務部
9,409,500円	8,287,800円	2,428,200円	1,345,500円	1,029,000円

2. 当製作所の予定直接作業時間 (年間)

第1製造部：24,000時間 第2製造部：35,000時間

3. 補助部門費の配賦資料

	配賦基準	合計	第1製造部	第2製造部	修繕部	材料倉庫部	工場事務部
修繕部費	修繕回数	200回	100回	90回	5回	5回	—
材料倉庫部費	材料出庫額	3,900千円	2,100千円	1,800千円	—	—	—
工場事務部費	従業員数	100人	48人	36人	6人	8人	2人

問1 答案用紙の部門別配賦表を完成し、第1製造部と第2製造部の部門別予定配賦率を計算しなさい。なお、補助部門費の配賦は直接配賦法による。

問2 第1製造部の当月の実際直接作業時間が1,962時間であったとし、答案用紙の第1製造部費勘定を完成し、当該勘定で認識される原価差異の内訳を示しなさい。なお、不利差異か有利差異のいずれか正しい方を○で囲むこと。

第 5 問 (20 点)

A R S 製作所では、製品 R を製造・販売している。以下の [資料] にもとづき、各問に答えなさい。

[資料]

1. 当期売上高 2,500,000 円
2. 全部原価計算によった場合の当期売上原価 1,275,637 円 (原価差異を含む)
3. 変動加工費予定配賦率は 140 円/個であり、当期の変動加工費配賦差異は 4,299 円 (有利差異) である。
また、変動販売費は 60 円/個である。

4. 固定費

(1) 予算データ

- ① 固定加工費年間予算 760,000 円
- ② 固定販売費及び一般管理費年間予算 570,000 円
- ③ 固定加工費は生産量を基準に予定配賦している。年間基準生産量は 1,900 個である。

(2) 実績データ

固定加工費実際発生額は年間予算額よりも 39,936 円多く、固定販売費及び一般管理費の実際発生額は予算と一致している。

5. 当期における生産・販売データ (期末製品の評価は平均法を採用している)

期首仕掛品量	—	期首製品量	300 個	(期首有高: 216,600 円)
当期投入量	1,900 個	当期完成量	1,500 個	
投入量合計	1,900 個	合計	1,800 個	
期末仕掛品量	400 個 (50%)	期末製品量	200 個	
当期完成量	1,500 個	当期販売量	1,600 個	

※ 期首製品有高の内訳は変動費 96,600 円、固定費 120,000 円である。

6. 加工費差異の分析には公式法変動予算を用いている。

問 1 全部原価計算によった場合の固定加工費配賦差異を求めなさい。なお、不利差異か有利差異のいずれか正しい方を○で囲むこと。

問 2 直接原価計算によった場合の損益計算書に示される変動売上原価 (変動加工費配賦差異を含む) の金額を求めなさい。

問 3 直接原価計算によった場合の期末仕掛品原価を求めなさい。

問 4 全部原価計算と直接原価計算での営業利益の差額を示す固定費調整表を作成しなさい。